受益者のみなさまへ

毎々、格別のお引き立てにあずかり、厚くお礼申し上げます。
さて、「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド」は、第137期から第142期までの決算を行いました。当ファンドは、米ドル建て高利回り事業債（ハイ・イールド・ボンド）を主要な投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行いました。
ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第137期（決算日 2015年12月22日）
第138期（決算日 2016年１月22日）
第139期（決算日 2016年２月22日）
第140期（決算日 2016年３月22日）
第141期（決算日 2016年４月22日）
第142期（決算日 2016年５月23日）
作成対象期間（2015年11月25日～2016年5月23日）

第142期末（決算日　2016年5月23日）	
基準価額	4,036円
純資産総額	821,300百万円
第137期～第142期（2015年11月25日～2016年5月23日）	
騰落率	△8.3%
分配金合計	420円

（注）騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

〈お問合せ先〉
フィデリティ投信株式会社
カスタマー・コミュニケーション部
東京都港区虎ノ門4丁目3番1号　城山トラストタワー
フリーコール 0120-00-8051（無料）
受付時間：営業日の午前9時～午後5時
ホームページ http://www.fidelity.co.jp/fij/

お客様の口座内容などに関するご照会は、お申し込みされた販売会社にお尋ねください。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページから下記の手順で閲覧、ダウンロードできます。
なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

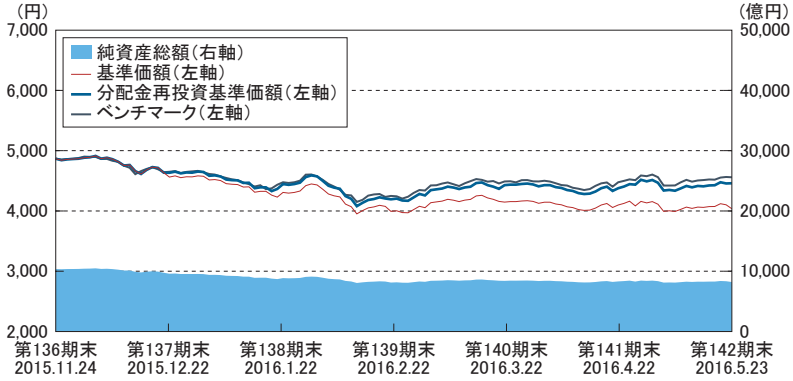
＜閲覧方法＞
上記URLにアクセス⇒「サイトマップ」より「運用報告書一覧」を選択⇒当ファンドを選択⇒「運用報告書（全体版）」を選択

基準価額をご確認いただけます。
http://www.fidelity.co.jp/fij/

フィデリティ投信株式会社
Fidelity INTERNATIONAL

1. 運用経過の説明

①基準価額等の推移



第137期首：4,866円
第142期末：4,036円（既払分配金420円）
騰　落　率：△8.3%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2015年11月24日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

＊分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

※ベンチマークは「バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（円換算）」です。
※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

②基準価額の主な変動要因

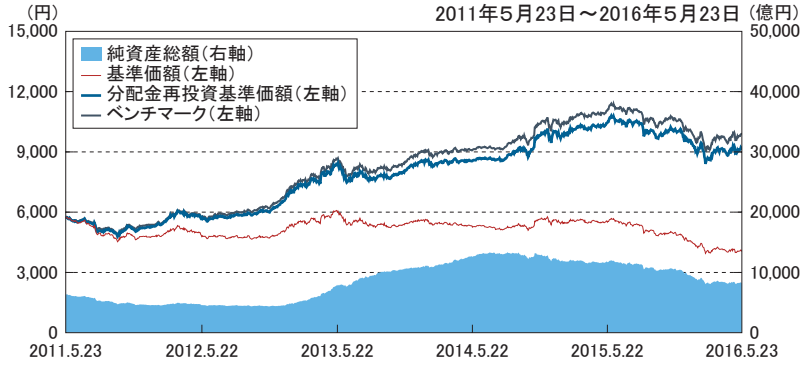
当作成期の当ファンドの騰落率は、△8.34%でした。
当ファンドは、フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券を組み入れることにより実質的な運用を当該マザーファンドにおいて行っております。
当作成期は、大幅な円高・米ドル安となったため、当ファンドの騰落率に大きくマイナスの影響を及ぼしました。一方、米国長期金利が低下したこと、米国ハイ・イールド債券のスプレッド（上乗せ利回り）が小幅に縮小したことは、当ファンドの騰落率にプラス寄与となりました。

③1万口当たりの費用明細

項目	第137期～第142期 2015年11月25日～2016年5月23日 金額	比率	項目の概要
(a)信託報酬	36円	0.841%	(a)信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は4,291円です。
(投信会社)	(17)	(0.402)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(17)	(0.386)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理及び事務手続き等の対価
(受託会社)	(2)	(0.053)	運用財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b)売買委託手数料	0	0.000	(b)売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.000)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c)有価証券取引税	―	―	(c)有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d)その他費用	0	0.007	(d)その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.006)	保管費用は、有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等のために、海外における保管銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.000)	監査費用は、ファンドの監査人等に対する報酬及び費用
(その他)	(0)	(0.002)	その他には、法定書類等(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等)の作成、印刷、提出等に係る費用や法律顧問、税務顧問に対する報酬及び費用等が含まれます。
合計	36	0.849	

(注1)当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
(注2)「金額」欄は、各項目毎に円未満を四捨五入しています。
(注3)「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

④最近５年間の基準価額等の推移



	2011年５月23日 期首	2012年５月22日 決算日	2013年５月22日 決算日	2014年５月22日 決算日	2015年５月22日 決算日	2016年５月23日 決算日
基準価額　（円）	5,745	4,782	6,001	5,255	5,504	4,036
期間分配金合計（税引前）（円）	―	840	840	840	840	840
分配金再投資基準価額騰落率（％）	―	△1.5	47.7	2.2	22.2	△12.1
ベンチマーク騰落率　（％）	―	0.3	50.0	5.1	21.8	△10.7
純資産総額　（百万円）	631,341	454,839	782,534	1,257,154	1,167,753	821,300

（注）分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2011年５月23日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

＊分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

※ベンチマークは「バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（円換算）」です。
※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

⑤投資環境

当作成期の米国ハイ・イールド債券相場は、バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックスで＋4.81%となりました。また、米10年国債は＋4.32%、米投資適格社債は＋4.14%となりました。当作成期末時点の米国ハイ・イールド債券の利回り（上記インデックス・ベース）は、前作成期末の8.30%から7.89%に低下し、米10年国債利回りは同2.26%から1.86%へ低下し、両者の利回り格差は小幅に縮小しました。

米国債券市場では、米国金融政策の今後の動向に加え、世界的な景気減速懸念やエネルギー価格動向、各国・地域の金融政策に注目が集まりました。当作成期前半は金利低下傾向となり、当作成期後半では金利は上下動はあれど概ね横ばいで推移しました。当作成期前半は、2015年12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で世界金融危機以来初の政策金利引き上げが行われましたが、その後、供給過剰懸念から原油価格が下げ足を強めたことでグローバルでのリスク回避指向が鮮明となり、安全資産として米国国債が選好された結果、金利低下基調となりました。2016年２月以降は、産油国生産凍結期待で原油価格が持ち直し、その結果、投資家心理が安定したことで、米国国債に対する逃避需要は後退しました。しかしながら、米国国内の経済指標は堅調さを維持するもインフレ期待を高めるほどには加速感はみられず、また、ECB（欧州中央銀行）の追加緩和に代表されるように米国外の主要地域では金融緩和基調が維持されたため、米国金利は概ね横ばいで推移しました。当作成期を通してみると、米国金利は低下しました。

米国ハイ・イールド債券市場は、前述のように、当作成期初から2016年２月にかけて原油価格が大きく下落し、投資家心理が悪化したことで軟調な推移となりましたが、それ以降は投資家心理の改善に伴い大きく持ち直しました。当作成期を通してみると、米国ハイ・イールド社債のスプレッドは小幅に縮小しました。

※文中の騰落率は、米ドル、現地作成期末ベースです。また、リターン、利回りの数値はバンクオブアメリカ・メリルリンチのインデックスによるものです。

⑥ポートフォリオ

当ファンドは、フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券を通じて投資を行っております。マザーファンドは、主として米ドル建て高利回り事業債（ハイ・イールド・ボンド）を中心に分散投資を行い、高水準の利息等の収入を確保するとともに、値上り益の追求を目指し運用を行いました。徹底した企業分析に基づき、個別銘柄の選択を重視した運用を行いました。

当作成期においては、市場での相対価値を考慮し、通信、健康サービス、支援ーサービスの比率を引き上げました。

組入上位5業種

前作成期末

	業種	比率
1	金融／投資	11.1%
2	通信	10.4
3	エネルギー	10.0
4	健康サービス	7.5
5	公益	5.4

当作成期末

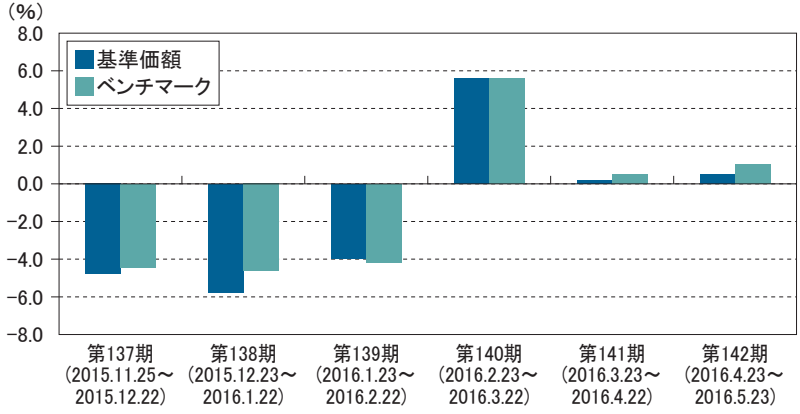
	業種	比率
1	通信	11.6%
2	金融／投資	10.7
3	エネルギー	10.1
4	健康サービス	7.9
5	支援ーサービス	6.6

（注）「比率」欄は、マザーファンドの投資資産に対する割合です。

⑦ベンチマークとの差異

以下のグラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

※ベンチマークは「バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（円換算）」です。
※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

当作成期の当ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率の△6.32%を下回りました。
なお、当ファンドは、フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券を組み入れることにより実質的な運用を当該マザーファンドにおいて行っております。
以下、当作成期の運用経過については、フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンドについて記載しています。

当作成期のファンドの対ベンチマークでの運用実績には、主に以下の要因が寄与しました。
プラス要因：
・サービスセクターの銘柄選択。
・メディアーケーブルセクターの銘柄選択。
・銀行セクターの銘柄選択。
マイナス要因：
・金属セクターの保有比率をベンチマーク対比低くしたこと。
・銀行セクターの保有比率をベンチマーク対比高くしたこと。
・公益セクターの銘柄選択。
・ダブルB格の銘柄選択。

⑧分配金

第137期から第142期の1万口当たり分配金（税引前）は、分配方針に基づきそれぞれ70円といたしました。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

●分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項目	第137期	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期
	2015年11月25日～2015年12月22日	2015年12月23日～2016年1月22日	2016年1月23日～2016年2月22日	2016年2月23日～2016年3月22日	2016年3月23日～2016年4月22日	2016年4月23日～2016年5月23日
当期分配金	70	70	70	70	70	70
（対基準価額比率）	1.51%	1.63%	1.72%	1.66%	1.68%	1.70%
当期の収益	17	18	17	22	15	18
当期の収益以外	52	51	52	47	54	51
翌期繰越分配対象額	2,161	2,110	2,058	2,011	1,957	1,905

＊「当期の収益」および「当期の収益以外」は円未満切捨てのため、合計額が「当期分配金」と一致しない場合があります。
＊当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
＊投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」が当該決算期末日時点の基準価額を上回ることがありますが、実際には基準価額を超えて分配金が支払われることはありません。

2．今後の運用方針

当ファンドにつきましては、引き続きフィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券を組み入れることにより、実質的な運用を当該マザーファンドにて行います。
米国経済は今後も回復基調をたどるものと思われます。労働市場は非常にしっかりしているものの、インフレ率は目標水準よりも低水準に留まっています。米国経済全体は、政策金利の引き上げを正当化出来る内容となっていますが、その成長は一様ではなく、外需に影響を受ける産業セクターでは、依然として若干の弱さがみられます。欧州、アジアなど、米国を除く地域の経済は、依然として金融緩和が必要な段階にあり、米国経済もその影響を受け、利上げペースについては、非常に緩やかなものとなることが想定されます。また、インフレ率が抑制される中、政策金利引き上げのプロセスで最終的に到達する金利水準は、過去の景気拡大局面よりも低い水準であることがいえると考えています。このような環境下、米国ハイ・イールド債券市場では、地政学リスク、世界マクロ景気減速懸念、原油価格動向等の外部要因、米国国内経済指標等を勘案しながら、金利や社債のスプレッド水準の調整を進めていくものと思われます。企業のデフォルト率は、小幅に上昇傾向となっているものの限定的であり、長期的な平均水準以下に留まっています。発行体企業のバランスシートの健全さ、当該資産クラスへの潜在的な需要、高い利回り水準を加味すると、米国ハイ・イールド債券は中長期的な観点からは、投資妙味の高い資産クラスであると考えています。発行体企業によっては、M＆Aを活発化させたり、レバレッジを高めるなど、株主に有利な戦略をとってきており、この点は継続的に注意深くみていく必要があります。米国経済は、引き続き安定した成長軌道を維持出来ると考えていますが、グローバル経済の不確実性に伴うダウンサイドリスクがあり、地政学リスクの高まり、エネルギー価格動向などによって、ボラティリティが上昇する懸念も残ることから、流動性を考慮し、より慎重な銘柄選択を進めていく必要があると考えています。

3．お知らせ

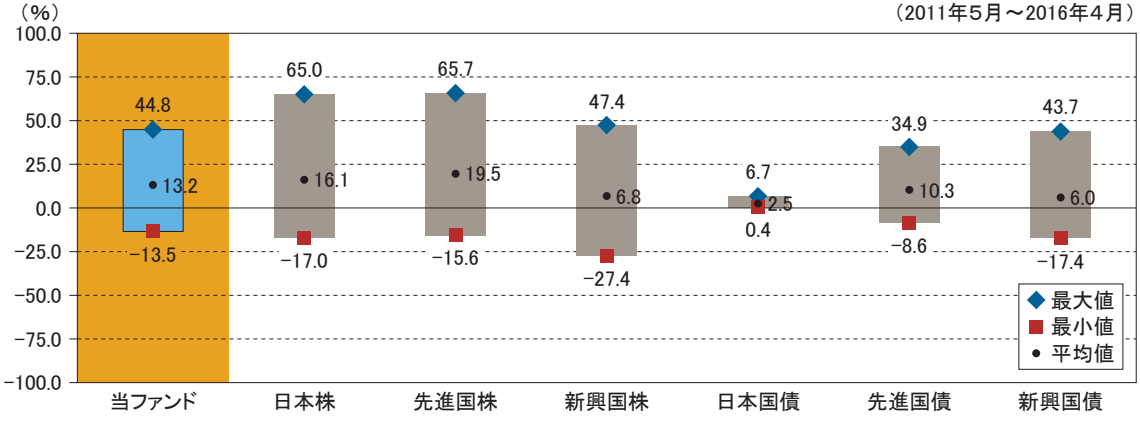
該当事項はありません。

4．当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	原則無期限です。	
運用方針	信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。	
主要投資対象	ベビー・ファンド	フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券を主要な投資対象とします。
	フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド	米ドル建て高利回り事業債（ハイ・イールド・ボンド）を主要な投資対象とします。
運用方法	●フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券への投資を通じて、米ドル建て高利回り事業債（ハイ・イールド・ボンド）を主要な投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 ●格付けに関しては、主に、Ba格（ムーディーズ社）以下またはBB格（スタンダード＆プアーズ社）以下の格付けの事業債に投資を行い、一部、格付けを持たない債券や、米国以外の国の発行体の高利回り事業債を組入れることもあります。 ●フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニーに、運用の指図に関する権限を委託します。	
分配方針	毎決算時（原則毎月22日。同日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の収益分配方針に基づき分配を行います。 ●分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ●収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。※ただし、必ず分配を行うものではありません。 ●留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

5．代表的な資産クラスとの騰落率の比較

当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（注1）2011年5月～2016年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。
（注2）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注3）当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
（注4）上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※各資産クラスの指数
日 本 株・・・TOPIX（配当金込）
先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス（税引前配当金込/円ベース）
新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス（税引前配当金込/円ベース）
日本国債・・・NOMURA－BPI 国債
先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本/円ベース）
新興国債・・・JPモルガンGBI－EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）
＊海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、指数提供元にて円換算しています。
＊詳細は後述の「指数に関して」をご参照下さい。

6．当ファンドのデータ

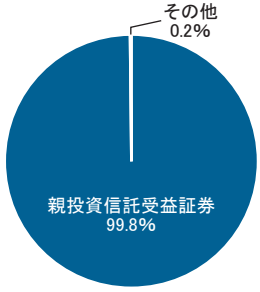
①組入資産の内容

組入上位ファンド

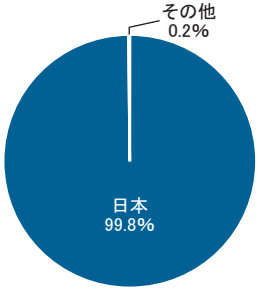
（2016年5月23日現在）

ファンド名	組入比率
	第142期末
フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド	99.8%
組入ファンド数	1ファンド

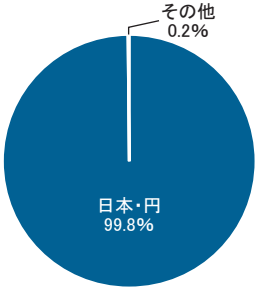
資産別配分



国別配分



通貨別配分



（注1）各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。
（注2）国別配分は、発行国を表示しています。
（注3）「その他」には現金を含みます。未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

＊詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

②純資産等

項目	第137期末	第138期末	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末
	2015年12月22日	2016年1月22日	2016年2月22日	2016年3月22日	2016年4月22日	2016年5月23日
純資産総額	958,992,897,172円	869,784,617,575円	812,578,571,958円	840,570,383,288円	828,554,088,318円	821,300,480,891円
受益権総口数	2,101,690,866,774口	2,056,109,626,926口	2,034,839,453,493口	2,026,787,045,599口	2,028,272,284,555口	2,035,180,760,392口
1万口当たり基準価額	4,563円	4,230円	3,993円	4,147円	4,085円	4,036円

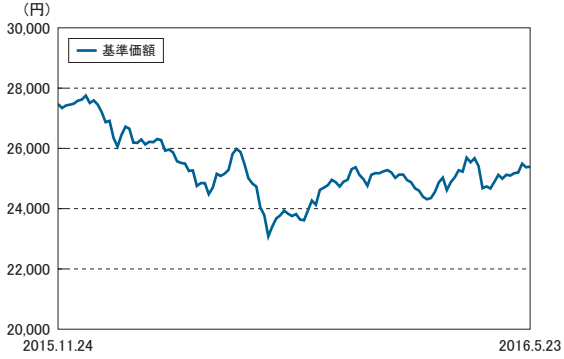
（注）当作成期中における追加設定元本額は210,078,726,578円、同解約元本額は305,108,865,627円です。

③組入上位ファンドの概要

フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド

（別途記載がない限り2016年5月23日現在）

基準価額の推移



組入上位10銘柄

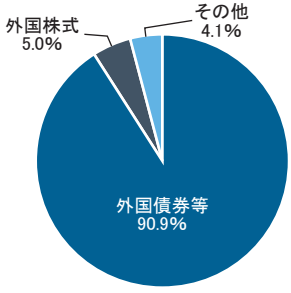
	銘柄名	業種	格付	比率
1	アリー LLC 8% 2031/11/01	自動車ローン	BB／Ba	1.7%
2	HCAホールディングス・インク 5.875% 2022/03/15	健康サービス	BBB／Baa	1.4
3	シティグループ 5.35% 2049/12/31	金融／投資	BB／Ba	1.3
4	エナジー・フューチャー 11.75% 2022/03/01	公益	Not Rated	1.3
5	SLM 8.45% 2018/06/15	金融／投資	BB／Ba	1.2
6	アルティス 7.75% 2022/05/15	メディアー放送	B	1.2
7	APXグループ 8.75% 2020/12/01	支援ーサービス	CCC／Caa	1.0
8	インターナショナル・リース・ファイナンス 8.625% 2022/01/15	金融／投資	BBB／Baa	1.0
9	スプリント・キャピタル・コーポレーション 6.9% 2019/05/01	通信	B	0.9
10	インテルサット・ジャクソン・ホールディングス 8% 2024/02/15	通信	B	0.9
組入銘柄数		530銘柄		

1万口当たりの費用明細

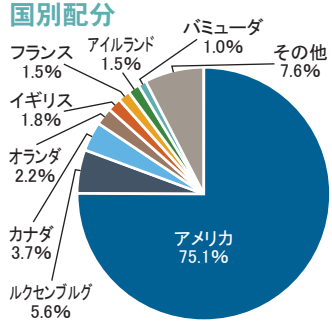
（2015年11月25日～2016年5月23日）

項目	金額
(a)売買委託手数料 （株式）	0円 (0)
(b)有価証券取引税	―
(c)その他費用 （保管費用）	1 (1)
合計	2

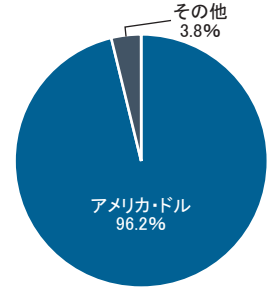
資産別配分



国別配分



通貨別配分



（注1）1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。2ページ（1万口当たりの費用明細）の項目の概要および注記をご参照ください。
（注2）各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。
（注3）銘柄はご参考のため、英文表記の一部をカタカナで表記しております。実際の発行体名と異なる場合があります。
（注4）格付は、S＆P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S＆P社の格付を優先して採用しています。（「プラス／マイナス」の符号は省略しています。）なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。
（注5）外国債券等には、金銭債権が含まれます。
（注6）「その他」には現金を含みます。未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。
（注7）国別配分は、発行国を表示しています。

＊組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

指数に関して

●ベンチマークについて

・バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックスとは、メリルリンチ社が算出・公表するハイ・イールド・ボンド市場の動きを示す指数です。

※バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（円換算）の値は、株式会社三菱東京UFJ銀行が発表する換算レートをもとに委託会社が算出し、調整を加えたものです。

●「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に記載の指数について

日本株	TOPIX（配当金込）	TOPIX（配当金込）とは株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）が算出・公表する株価指数です。東証の知的財産であり、TOPIX等の算出、数値の公表、利用などTOPIX等に関する権利は東証が所有しています。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス（税引前配当金込/円ベース）	MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く先進国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス（税引前配当金込/円ベース）	MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、エマージング諸国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
日本国債	NOMURA－BPI 国債	NOMURA－BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA－BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本/円ベース）	シティ世界国債インデックス（除く日本/円ベース）とは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
新興国債	JPモルガンGBI－EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	JPモルガンGBI－EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシー. が算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。当指数の著作権はジェー・ピー・モルガン・チェース・アンド・カンパニーに帰属しております。